

障害者スポーツの最近の動向について

1. 障害者スポーツ大会について

(1) 北京パラリンピック

9月6日からの12日間の開催された本大会は、各地方自治体の御協力の下、次のとおり日本選手が27個のメダルを獲得し、国民に多くの勇気と感動を残して、無事、終了しました。

・開催期間	2008年9月6日(土)～17日(水)
・開催国・都市	中国・北京
・運営主体	国際パラリンピック組織委員会 (IPC) 北京オリンピック組織委員会 (BOCOG)
・参加国・地域数	147カ国・地域
・参加選手・役員数	約6,000人(選手:約4,000人、役員:約2,000人)
・日本選手団	294名(選手:162名、役員:132名)
・競技・種目	20競技(日本選手参加17競技)
・競技成績	メダル獲得数:27個(金:5個、銀:14個、銅:8個)

(2) 第8回全国障害者スポーツ大会

国内最大の大会である全国障害者スポーツ大会が、次のとおり開催されます。

今回から精神障害者の競技も正式に加わり3障害一緒の初めての大会となりますので、地元を始めとする各地方自治体の御協力をお願いします。

・会期	平成20年10月11日(土)～13日(月)
・開催地	大分県、大分市、別府市、佐伯市
・愛称	「チャレンジ!おおいた大会」
・スローガン	「笑顔、元気、ともに未来へ、新たな一歩」
・主催	厚生労働省、(財)日本障害者スポーツ協会、大分県、大分市等
・後援	文部科学省、(財)日本体育協会、(福)全国社会福祉協議会等
・選手団	64都道府県・指定都市の選手団 約5,500人(選手・役員) 内訳:身体約1,400人、知的約2,000人、精神約100人、役員約2,000人
・実施競技	個人競技(6競技) 陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球(サントテーブルテニスを含む)、フライングディスク、ボウリング 団体競技(7競技) バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、グラウンドソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボール オープン競技(2競技) ふうせんバレーボール、卓上バレー

2. 障害者スポーツ支援に向けた更なる取組について

北京パラリンピックを契機に、次のとおり他の選手の模範となるメダリストへの報奨金制度の創設や、次回以降の大会を見据えた選手の育成強化、活動基盤の充実等を更に進め、障害者スポーツの裾野を広げる取組を図っていくこととしています。

これらの取組は(独)福祉医療機構の協力のほか、民間寄付も募り実施します。

障害者スポーツ支援に向けた更なる取組

(1) 事業主体 日本パラリンピック委員会 (JPC)
(日本障害者スポーツ協会 内部組織)

(2) 事業概要

① パラリンピックメダル獲得者への報奨金制度の創設

② 障害者スポーツ普及のための各種事業への支援

(各事業の具体的内容については、協会で検討中。)

- ・ 競技別指導者養成事業 ～中核的指導者の養成～
- ・ 次世代選手育成強化事業 ～次期アスリートの養成～
- ・ スポーツ推進対策事業 ～裾野を広げるための取組～

<参 考>

障害者スポーツ支援に係る街頭募金の実施

- ・ 主催 財団法人 日本障害者スポーツ協会・JPC
- ・ 日時 平成20年9月21日(日) 15:00～(実施済み)
- ・ 場所 銀座 数寄屋橋公園(数寄屋橋交番 横)
- ・ 出席者 舩添 厚生労働大臣
北京パラリンピックメダリストほか
- ・ 寄付金先 口座名:財団法人 日本障害者スポーツ協会寄付口
銀行名:みずほ銀行 小舟町支店
口座番号:(普通) 1134725
- ・ 問い合わせ先 財団法人 日本障害者スポーツ協会 TEL:03-5939-7021

※ 寄付金は随時受け付けているので周知等のご協力をお願いしたい。